

## 推薦入試の小論文について

本学部の推薦入試で課している小論文は、一般入試の筆記試験に比べて、深い知識の有無よりも科学的あるいは論理的な文章読解力、思考力および文章表現力を評価することに重点を置いて出題されています。主専攻プログラムによっては関係分野の最低限の基礎知識が必要となる場合もありますが、与えられた長文中の記述内容を正確に理解すれば、それに基づいて解答できるよう、多くの場合工夫されています。

従って日頃から、教科の学習のほか、関心のある分野の一般向けの図書や科学雑誌の記事などの文章や付随する図表の意味を読み取って、その論点を要約するような学習が有効と思われます。このような学習は国語の能力向上の効果もあると思われるので、一般入試向けの学習と兼ねて無理なく進められると思われれます。

生物学プログラム、地質科学プログラム、自然環境科学プログラムの小論文については、以下の説明も参考にしてください。

### <生物学プログラム>

小論文では論理的思考力や表現力と基礎的な英文読解力を評価します。生物学と英語の基礎知識をもとにした読解力、データ解読力、および表現する力（文章力）を普段から鍛錬することをおすすめします。

### <地質科学プログラム>

地質科学プログラムの小論文では、入学後の勉学に必要な「論理的思考力を評価」します。例えばデータ解読型の問題の場合、データが示す傾向（事実）と、そこから導かれる推論（考察）が、おのおの適切に文章化され、整然と、筋道立てて第三者に伝えられているかどうか、評価のポイントになります。理科的な作文を繰り返し行って、添削を受けることで、論理的思考を養われるようおすすめします。

### <自然環境科学プログラム>

当プログラムの推薦入試では、知識を問う問題ではなく、文章を正確に読み取る力と図表などを読み解く力、日頃から興味を持って考える力を評価しています。つまり、知識はそれほど多くなくても理学的な考え方ができる学生ならば受け入れたいと考えています。したがって、「知識を詰め込む勉強」ではなく、論理的に理解する力や、自分の意見を論理的に説明できる力を培っていただきたいと思えます。